

# 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討ワーキンググループ 報告書 概要

## 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害の特徴

- **巨大な津波により膨大な数の死者が発生**  
【死者数】日本海溝地震：最大約19.9万人、千島海溝地震：最大約10万人
- **建物被害、ライフライン・インフラ被害など、甚大な被害が発生**  
【全壊棟数】日本海溝地震：最大約22万棟、千島海溝地震：最大約8.4万棟
- **北海道から千葉県までの広域にわたり被害が発生**

## 日本海溝・千島海溝沿いの地域特性

- **積雪寒冷地特有の課題**
  - ・吹雪や積雪寒冷により避難に時間を要する
  - ・屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じる
- **北海道・東北地方の沿岸地の特性**
  - ・地理的状況による全国からの応援体制の脆弱性の懸念等

## 防災対策

### 基本的方向

#### 目標

- 人命を救う
- 被害を最小化する
- 回復をできるだけ早くする

### 1. 津波からの人命の確保

- 津波対策の目標は「命を守る」こと。住民等の迅速かつ適切な避難が重要
- 冬季の低体温症のリスク等を踏まえた避難時の防寒対策が必要

### 2. 各般にわたる甚大な被害への対応

- 死傷者発生や救助等の妨げとなる建物倒壊や火災への事前対策が必要
- あらゆる応急対策の前提となるライフライン・インフラ施設の機能確保が必要

### 3. 広域にわたる被害への対応

- 積雪寒冷下での応急対応の遅れを考慮した事前の対策や訓練等が必要
- 発災時に行政や企業等が事業を継続し、経済的被害を減じることが重要

### 4. 対策を推進するための事項

- 国民一人ひとりが主体的に防災行動をとる「災害文化」の醸成が重要
- デジタル技術の活用による迅速な避難や救助等が図られる社会の構築が重要
- 巨大地震への注意を促し、日頃からの地震への備えを再確認させることが重要

### 具体的に実施すべき主な対策

基本的方向を踏まえ、以下の観点で具体的な防災対策を推進

- ① 積雪寒冷地特有の課題を考慮した対策
- ② 事前防災
- ③ 災害発生時対応とそれへの備え
- ④ 被災地域内外における混乱の防止
- ⑤ 多様な発生態様への対応
- ⑥ 様々な地域的課題への対応

- 積雪寒冷を考慮した津波避難施設、避難路の整備
- 防災教育や防災訓練を通じた住民の避難意識の向上
- 防寒具・暖房器具の装備等による避難時の防寒対策の推進
- 個別避難計画の策定等による要配慮者の避難支援の促進
- 海岸保全施設の耐震化・耐浪化等や集団移転等の推進 等

- 積雪荷重を考慮した建物の耐震化の推進
- 感震ブレーカー等の普及による出火防止対策の推進
- 迅速な消火活動による延焼防止対策の推進
- 電気、通信等のライフライン施設の耐震化、耐浪化、早期復旧
- 橋梁、岸壁等のインフラ施設の耐震化、早期復旧 等

- 積雪寒冷を考慮した広域的な支援体制の構築
- 全国からの応援を迅速に展開するための道路、港湾等の啓開
- 積雪寒冷を考慮した救助、物資運搬等に係る人員・装備・備蓄の確保
- 行政や企業等による事業継続計画（BCP）の策定・充実 等

- 自治体研修や住民向け講座等による防災意識の高い地域社会の構築
- 災害情報の収集・共有・分析等に係る情報システムの充実
- 地震・津波に関する情報提供の迅速化と精度向上に向けた技術開発
- 後発地震発生への注意を促す情報発信と地震への備えの再確認の実施 等

